

「レジデント型研究者」による 長期の被災地復興支援

シンポジウム

震災からの復興を「活力
ある街・地域」創りにつな
げる ～地域の「潜在力」
を引き出す社会技術

佐藤 哲
長野大学
環境ツーリズム学部

2011年8月4日

ロバストな地域づくりの重要なアクター 「レジデント型研究機関・研究者」

地域づくりの主役は多様なステークホルダー それを支える レジデント型研究機関・研究者

地域社会の中に定住して研究を行う研究者または大学、研究所などで、地域社会の課題の解決に役立つ領域融合的研究を、研究機関・研究者の使命として明瞭に意識しているもの

★事例

兵庫県立コウノトリの郷公園（兵庫県豊岡市）

WWFサンゴ礁保護研究センター（沖縄県石垣市白保）

矢作川研究所（愛知県豊田市）

頼りになる地域の目利き レジデント型研究者・専門家

- ・レジデント型研究者・専門家の重要な特徴
⇒経験を共有する頼りになる仲間・身内
- ・地域が身内として信頼できる専門家を持つ
⇒科学知の地域のための「解釈」を提供するトランスレーター
身内の言葉が「納得」をもたらす
- ・地域の風土、自然にかかわる智慧(ローカル知)を共有
⇒地域目線で生態系サービスを生活に活かす知識技術
⇒ボトムアップの取り組みを支える知の構造
- ・外部の専門家と地域をつなぐ
⇒地域をサポートする意思を持つ多様な訪問型研究者・専門家
地域の人々の意思決定と活動を後方支援

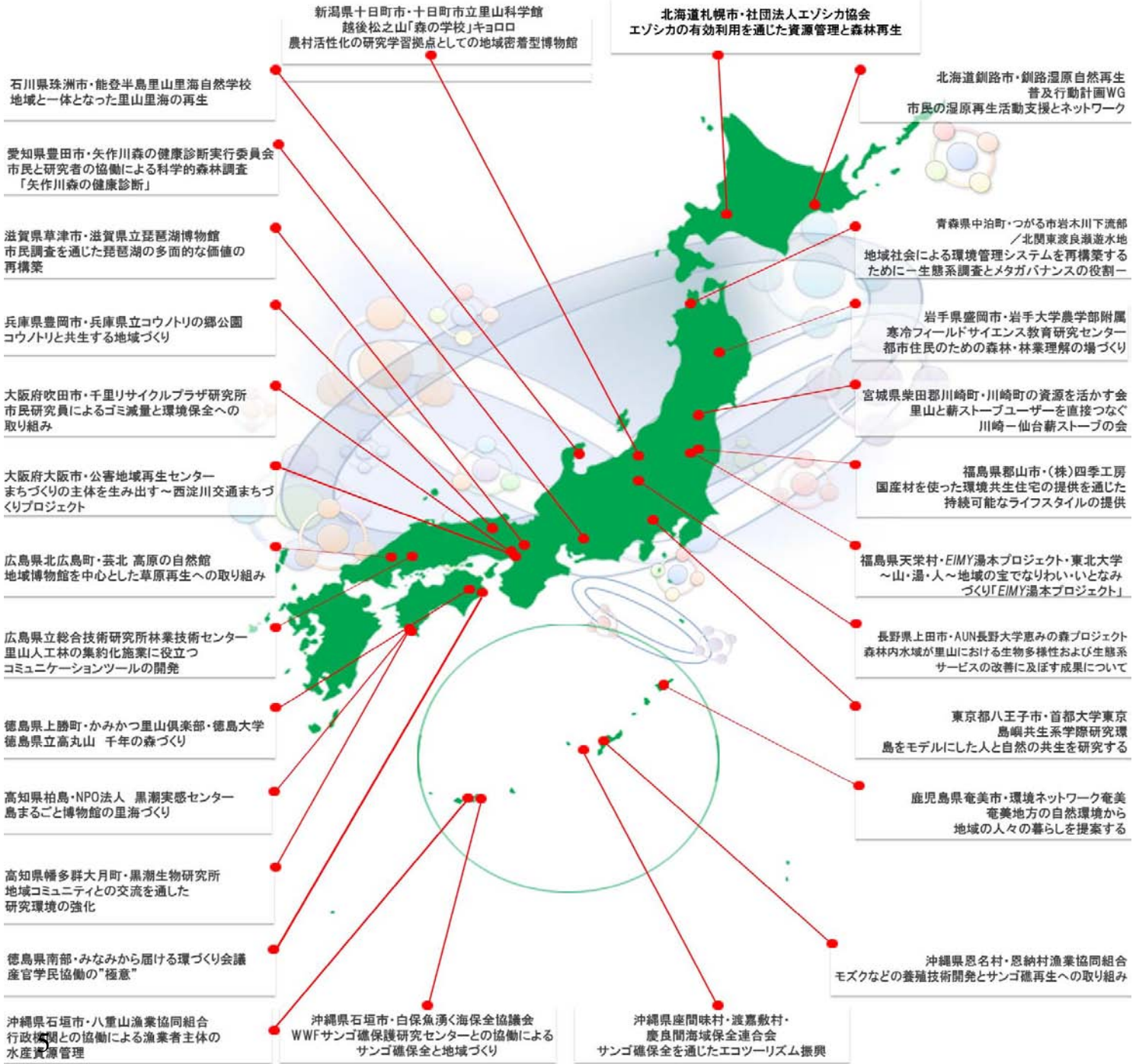
地域の目利きはどこにでもいる？

- ・災害からの復興と新たな地域づくりを支える基盤
⇒実は潜在的なトランスレーターはどこにでもいる？
- ・地域の歴史・経験を共有する頼りになる目利きを発掘する・育てる
⇒そのための仕組みをどうつくるか・・・外部との相互作用
- ・地域住民が主導する地域ビジョンづくりと持続可能な発展を地域内外から支援

地域環境学ネットワーク

http://www.nagano.ac.jp/sato/network_localscience/index.html

全国各地の科学者・地域のトランスレーター！
ステークホルダーが参加
(2010年3月設立、現在95名の会員)



どのような未来を目指すか？

持続可能な地域文明のあり方の探索

- ・ **しなやかで強靱な地域社会のためのボトムアップの意思決定**
 - ⇒ **地域ごとに固有のビジョン・それぞれ異なる知識・技術**
 - 地域の未来を地域が決める(グローバルな圧力に抗して…)**
 - ⇒ **地域のトランスレーターを通じた、専門家に依存しないだけでも**
 - わかり使える知識・技術の拡大**

- ・ **身近な生態系サービスを日常に等身大で活用できる選択肢**
 - ⇒ **多様な自然エネルギー(分散型エネルギー)**
 - ⇒ **環境調和型一次産業に付加価値をもたらす経済システム**
 - ⇒ **地産地消のビジネスモデル**
 - ⇒ **地域資源を活かしたツーリズム・環境教育サービス**

- ・ **地域の固有性に対応できる多様な選択肢**
- ・ **地域の目利きと協働した住民自身の選択と意思決定**
- ・ **各地の情報の共有と協働**

資源利用システムとライフラインの「複線化」 多様なシステムの共存

- ・巨大システムを地域社会が取り込み、使いこなす
 - ⇒巨大なライフラインを活かしつつ、地域の実情に合わせた固有のシステムを構築
 - ⇒エネルギー・食料などの生活基盤に多様な選択肢を維持する(デュアル・エネルギー・パス、新妻2011)
 - ⇒スケールメリット以外の選択肢を保障する仕組み
- ・流通への全面依存からの脱却
 - ⇒「もったいない」・・・本気で消費の削減とリサイクル
 - ⇒価値の多様性・・・地域産品の価値の見直し
 - ⇒持続可能な一次産業製品の流通と活用の仕組み(消費者の選択)
 - ⇒「ない」ことを受け入れる・選択するメンタリティ